

暮らし方を

はじめまして、八女に暮らしています

選ぶ Style 6



YAME NO ROMAN
八女移住計画

《問い合わせ窓口》

福岡県八女市役所 地域振興課（定住対策係）
TEL.0943(24)8162 FAX.0943(22)2186
E-mail:teijyutaisaku@city.yame.lg.jp
URL:<http://www.romanticyame.com>





山村塾では、子ども達や国際ボランティアと一緒に、棚田の草取り体験や里山体験を行っています。

取材日:2016年7月14日

選べるライフスタイル

NPO 法人山村塾とは

福岡県八女市黒木町笠原地区で、都市と農山村の住民が一緒になり、環境にやさしい米づくりや、豊かな生態系の森づくりを通じて山村の環境を守る取組みを行っています。稻作体験や山林体験が出来る体験メニューの実施や、山村の伝行事や交流事業のほか、週末に1泊2日で棚田や山林の保全活動を行う里山ミニワークも随時開催。農山村の自然と文化を体験しながら里山を守っています。



小森さん

※平成24年7月に発生した九州北部豪雨で山村塾のある八女市黒木町笠原地区は、甚大な被害を受けました。

《八女市へのアクセス》福岡空港～八女IC 車で約40分、JR鹿児島本線 羽犬塚駅よりバスで約20分、西鉄久留米駅からバスで約30分

《問い合わせ窓口》福岡県八女市役所 地域振興課(定住対策係)

TEL.0943(24)8162 FAX.0943(22)2186 E-mail.teijyutaisaku@city.yame.lg.jp URL. http://www.romanticyame.com

小森 耕太さん



HISTORY

出身地

福岡県福岡市

移住元

福岡県福岡市

移住年

2000年

職業

NPO 法人事務局長

年代

30代

家族構成

本人・妻・長男

21歳の大学生の時、研究室からのスタッフとして山村塾に来たのが、最初のきっかけです。

初めて合宿に参加した時に、棚田の石積みを地元の農家のおじいちゃんと一緒にやつたんです。若い大学生が動かそうとしても動かない大きな石を70代くらいのおじいちゃんが「金テコ」という棒を使ってクルクルっと石を見事に積み上げていくわけですよ。それ見て感動して!

今まで何となく棚田の風景を見ていたけど、こうやって一段一段昔の人が風景を作ってきたんだな…と。まあ、衝撃でしたね。それから、そういう作業にはまり込むようになつて、あまり大学と関係なく笠原に通いはじめました。

農家さんたちの本気に心が動きました

あまり一般的な就職がイメージ出来ずに「森づくり」の活動を仕事にできたらいいなと各地に話を聞きに行ったりしていた頃、丁度、山村塾も若い人を探していることを聞きました。何より、農家の方たちがお金を使意するつことに驚きましたし、山村塾を本気でやっているなっていうのが感じられたので、住み込みで農作業を手伝いながら山村塾の運営や事務に携わることになりました。

当時は就職というより、良い経験を積めるだろうな、という気持ちが強かったです。結果的には、ちょっとずつ繋がりが広がり、上手くいつて20年近く関わることが出来ています。

農業、林業に真剣に取り組んでる方が多い笠原地区で、職業(生業)としてのシビアな話を聞けるのが魅力的だと思います。農業、林業で家族を養わないといけない。もちろん皆さん本気ですよね。その中で、地域の農家さんたちと真剣にお互い言い合える関係になったのは良かったですし、楽しいです。

季節感のある暮らしに心も安らぐ

最初は、国際的に環境保全をしてるイギリスのボランティア団体から海外のノウハウを教えてもらうために、海外の人たちに来もらつてました。

現在は、国際ワーキングキャンプ『里山80日ボランティア』ということで、環境保全だけじゃなく、海外、田舎が好きといった、いろんな興味を持つた人たちに集まつてもらえます。海外の人、日本のボランティアの人、地域の人、全然違う普段は会うこともない価値観の違う人たちが意見を交わすのは面白いですね。共同生活の中で話したり、共同作業をすることで、新しい発見がある。一番良いのは海外からの視点で日本の良い所を気づかされることですかね。

里山生活と国際交流

山村塾は、もともと棚田保全の活動をしていましたが、豪雨災害の時に地域の農家さんたちが、お茶畑とかの心配するかと思いきや「このままじゃ棚田がなくなる」って、みんな言い出しました。それ聞いて、この地域の人たちにとって棚田の風景って大事だったんだなあって。その時初めて気づきましたね。

今までモヤモヤと構想していたことを、関わりが出来た地域の人たち、ボランティアの人たちと一緒に形にしてきました。それが、笠原の棚田のお米を買ってもらうということでした。

農産物は良いものが高く、悪いのが安いのは当たり前です。でも、その価値観だけでは何かわびしい気がします。物の善し悪しも大切ですが、この人が作ったものだから大切にしたい。あの人も食べてもらうものだから良いものにしたい。そんな風に、またの人と農家との関係性を築いていくことで、棚田での米づくりが地中で生業として継続し、棚田の風景が守れると良いと思っています。

災害で知った地域の人にとって欠かせない棚田の風景

「Non-ProfitOrganization」又は「Not-for-Profit Organization」の略称で、様々な社会貢献活動を行い、団体の構成員に対し、収益を分配することを目的しない団体の総称です。

したがって、収益を目的とする事業を行うこと自体は認められますが、事業で得た収益は、様々な社会貢献活動に充てることになります。

福岡県八女市(ふくおかん やめし) 人口 65,639 人、世帯数 24,495 世帯 ※平成28年6月30日現在
県内2位の広大な面積を有する八女市。平野部から山間部に至るまで自然や歴史、伝統文化などの魅力満載。

豊かな地域資源を活かした観光産業や町おこし事業にも力を入れ活気あるまちづくりが進んでいます。

そんな八女では、あなたに合ったライフスタイルがきっと見つかるはずです。